

今は字寺山にあつて、昔この奥に大和山定満寺があつたと伝えられ、門前の辺といわれる。江花丹後清常の植えた大椿が、昭和初期まであつた。一面畑で椿畑と呼んでいる。

七、中の森

今、字江花屋敷(上江花)の中ほどで、永禄元年にこの森に石上神社を遷した。この時、植えたと伝えられる樅の大木があつて、「永禄樅」と呼ばれていたが、昭和二十二年頃、伐採された。

文久元年、七森の各氏神を、石上神社境内に合祀した。この時の庄屋、鈴木喜右エ門。世話人、大木喜太郎、本間眞作。神主、和田織之丞という。

(話者 小柳仁吉)

神 屋 敷

《滝》

滝屋敷の西の高台を、神屋敷または国造屋敷と呼んでいる。ここはその昔、当地方を治めた。国造建弥依来命がしばらく住んでいた所といわれる。今の滝屋敷の東の方には部下が住み、中滝、下滝という屋敷があつたといわれる。

建弥依来命は、石背国を治めるため、この地方に来て、西の山に皇太神宮と水神様(水波野目命)祀つた。ここは今でも石背山と呼び、その旧跡があるといわれる。

石妻山の麓には、命の出身地の石沼神社を遷し祀つた。